



### 視点の移動 (方向、遠景、拡大)



ある日の暮方の事である。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。



広い門の下には、この男のほかに誰もいない。ただ、所々丹塗の剥げた、大きな門柱に、蜘蛛が一匹とまっている。羅生門が、朱雀大路にある以上は、この男のほかに、雨やみをする市女笠や採鳥船子が、もう二三人はありそうなものである。それが、この男のほかに誰もいない。

一瞬、画面が虫の拡大に

6

Handwriting practice lines for page 6.

### 視点の移動 (方向、可視、不可視)



その代りまた鴉がどこからか、たくさん集って来た。昼間見ると、その鴉が何羽となく輪を描いて、高い鴉居のまわりを囀きながら、飛びまわっている。ことに門の上の空が、夕焼けであかくなる時には、それが胡麻をまいたようにはっきり見えた。鴉は、勿論、門の上にある死人の肉を、啄みに来るのである。



現実=雨のはず...  
描写=夕焼け(晴) 架空の描写



7

Handwriting practice lines for page 7.

### どう見えるのか?



雨は、羅生門をつつんで、遠くから、ざあっと云う音をあつめて来る。夕闇は次第に空を低くして、見上げると、門の屋根が、斜につき出した甍の先に、重たくうす暗い雲を支えている。



視点 = 下人からの視点 (見上げる)  
見られるもの = 下人の心情とリンクしている (この場合、圧迫感・憂鬱感)

8

Handwriting practice lines for page 8.

### 語り手の存在



作者はさつき、「下人が雨やみを待っていた」と書いた。しかし、下人は雨がやんでも、格別どうしようとする当てはない。ふだんなら、勿論、主人の家へ帰る可き筈である。所がその主人からは、四五日前に暇を出された。前にも書いたように、当時京都の町は一通りならず衰微(すいび)していた。今この下人が、永年、使われていた主人から、暇を出されたのも、実はこの衰微の小さな余波にほかならない。だから「下人が雨やみを待っていた」と云うよりも「雨にふりこめられた下人が、行き所がなくて、途方にくれていた」と云う方が、適当である。その上、今日の空模様も少からず、この平安朝の下人の Sentimentalisme に影響した。

9

Handwriting practice lines for page 9.

### 語り手の存在 |



①、語り手とは、作者ではない

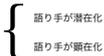
たとえ、「わたし」とか「作者」と書いてあっても異なる!

作者は、その時々で色々な価値観で物語を書く



②、語り手は

- 1、物語に全く出てこない場合
- 2、物語の中の誰か



というケースがある。

10

Handwriting practice lines for page 10.













### 語り手は「時間操作」もします (復習)

改題キー  
日本文化研究所  
2011

出来事の順番 (ストーリー)

A (動機) → B (事件) → C (かけひき) → D (解決・推理)

語られる順番 (プロット)

B (事件) → C (かけひき) → D (解決・推理) → A (動機)

語られる長さ (小説の場合文字数で換算)

Aが長い=動機が重要な話 (清張など)

Dが長い=推理を差しむ (一般の推理小説)

Cが長い=犯罪のばれる過程が重要 (古畑など)

語られる回数

同じエピソードが繰り返される=伏線

41

Handwriting practice area consisting of multiple sets of horizontal lines. Each set includes a solid top line, a dashed middle line, and a solid bottom line, providing a guide for letter height and placement.